

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第40週 （9月30日～10月6日）

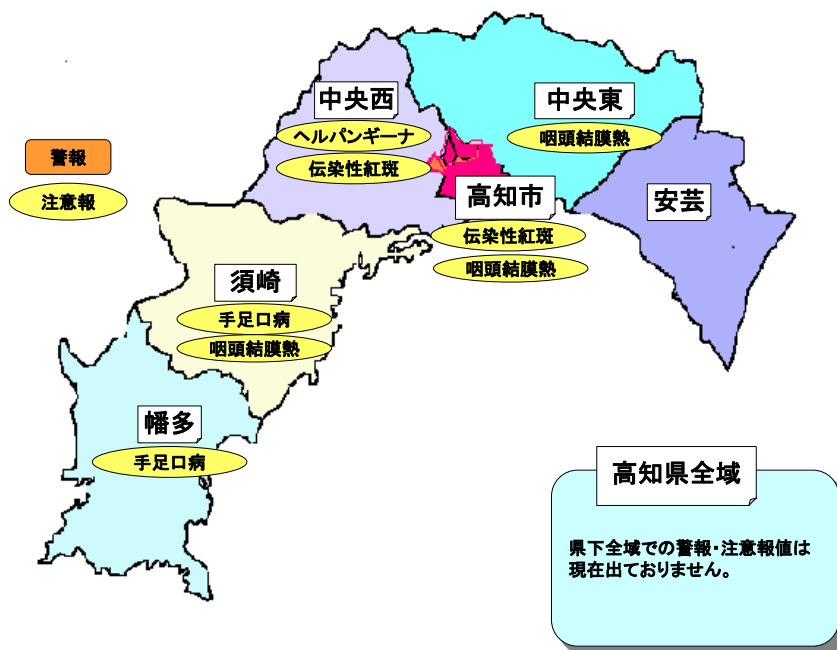
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
RSウイルス感染症	→	2.77	須崎、中央東で減少していますが、安芸で急増、幡多で増加しています。
感染性胃腸炎	→	1.77	須崎で急減、高知市で減少していますが、安芸で急増、中央東、中央西で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	1.50	中央東、安芸で急減していますが、中央西で急増、県全域、高知市で増加しています。
手足口病	↗	1.27	中央西、高知市で減少していますが、幡多、安芸、中央東で急増、県全域、須崎で増加し、幡多、須崎では注意報値を超えています。
咽頭結膜熱	→	0.90	幡多、安芸、中央西で急減していますが、中央東で急増、須崎、高知市で増加し、須崎、中央東、高知市では注意報値を超えています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

咳やくしゃみの飛沫による感染症はたくさんあります。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

咳エチケット

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

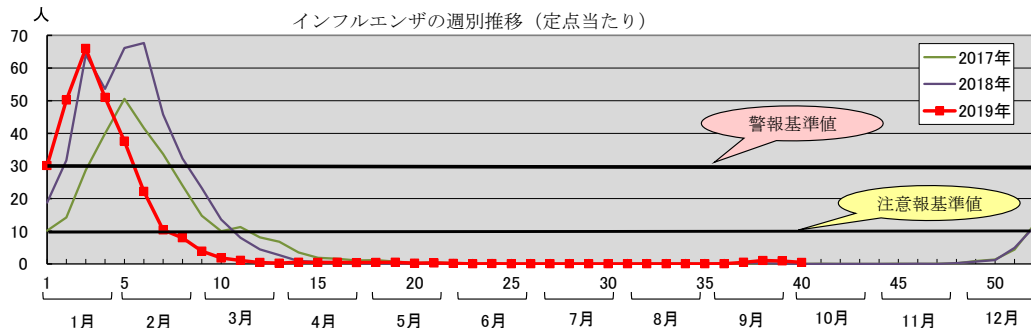


★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○インフルエンザ気を付けて！

インフルエンザは典型的には突然の発熱で始まり、半日以内に 38℃を超える高熱となり、しばしば頭痛や筋肉痛を伴い、発熱は 3 日程度続きます。潜伏期は 18～72 時間程度です。

第 40 週は、インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザ A 型 21 件の報告があります。



県外ではインフルエンザ警報が発令中の地域もあり、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することがあるので、集団生活の場では特に注意が必要です。

<予防対策>

～かからないために～

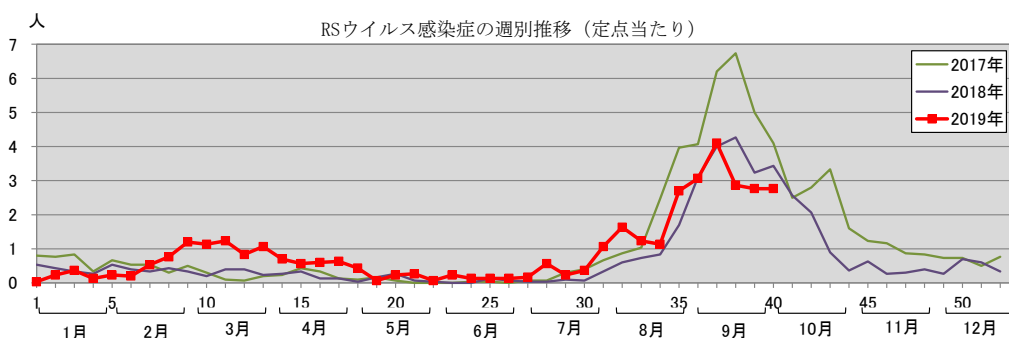
- ① 外出した後などにはこまめに手洗いしましょう。
- ② 外出時はなるべく人ごみを避けましょう。
- ③ 十分な栄養と休養をとりましょう。
- ④ 10 月から予防接種が始まりますので、インフルエンザが流行する前に受けましょう。
（予防接種をご希望の方は事前に医療機関（かかりつけ医等）にお問い合わせ下さい。）

～人にうつさないために～

- ① 咳やくしゃみなどが出るときは出来るだけマスクをするなど「咳エチケット」を守りましょう。
- ② インフルエンザが疑われるときには、登校を控えるなど、外出は出来るだけ控えましょう。

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

この病気は 2 日～1 週間（通常 4～5 日）の潜伏期間の後に、軽い風邪様の症状で発症し、通常 1～2 週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）に RS ウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。



<予防方法> 咳エチケットと手洗いが大切です

- ・現在、ワクチンはありません。
- ・咳エチケットと手洗いを心がけましょう。

患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。

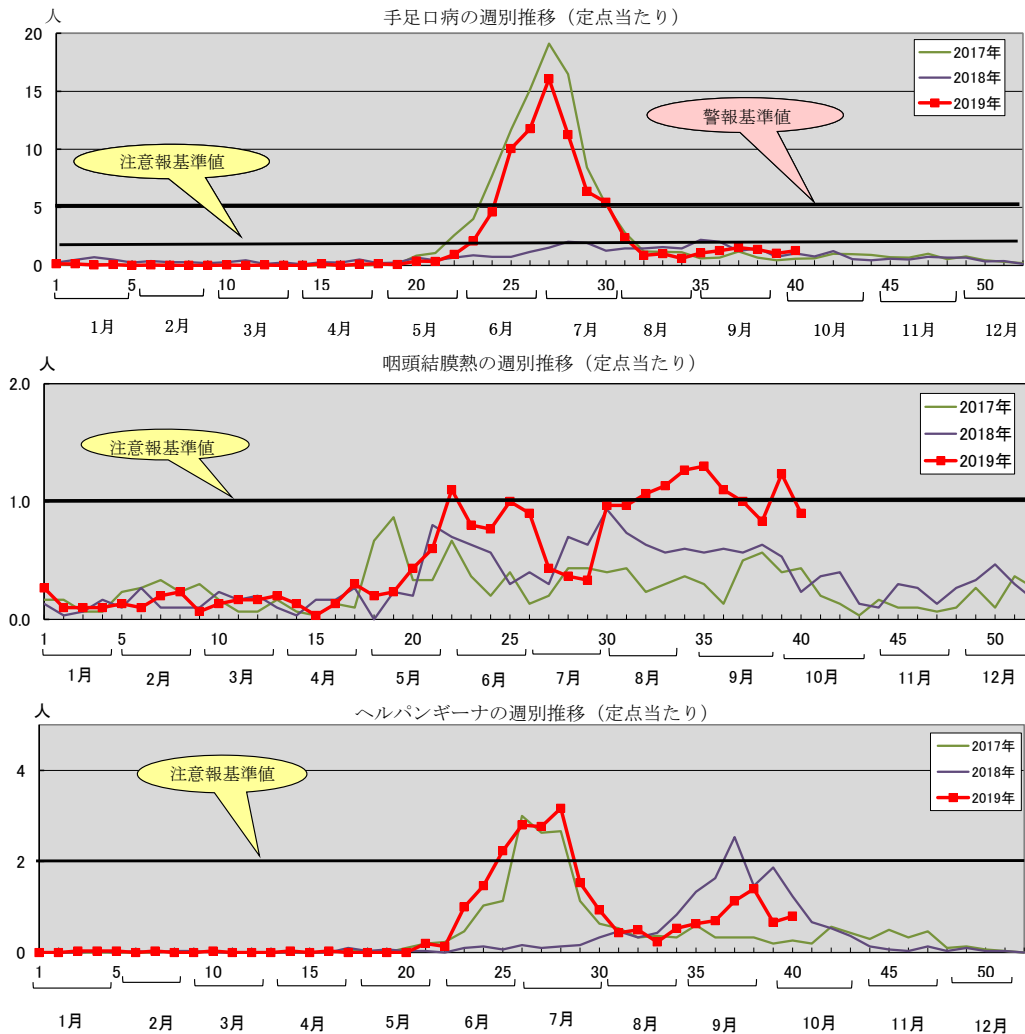
●RS ウイルス感染症 Q&A（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

○夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ）にまだまだ注意しましょう！

手足口病、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナは、主として乳幼児にみられ、手足口病は手、足、口腔内、口唇に小水疱が生じ、咽頭結膜熱は発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とし、ヘルパンギーナは口咽部に特有の小水疱と発熱を主症状とするウイルス性感染症です。

潜伏期は、手足口病では3～5日程度、咽頭結膜熱では5～7日程度、ヘルパンギーナは2～4日程度です。



【学校感染症】

学校保健安全法（同法施行規則第18条、第19条）では、出席停止期間の基準が、手足口病とヘルパンギーナは「発熱や咽頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可」と規定される学校感染症（第3種）で、咽頭結膜熱は「主要症状が消失した後2日を経過するまで」と規定されている学校感染症（第2種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りでないと規定されています。

＜予防方法＞ これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のもを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- ・手足口病は治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されますし、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合があると考えられています。しっかりした手洗いが大切です。

●厚生労働省 「わかりやすい感染症 Q&A」（O157, ねずみ病, つつが虫病, 高病原性インフルエンザ, 咽頭結膜熱, 感染性胃腸炎, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発疹, 風しん, ヘルパンギーナ, 麻しん, 流行性耳下腺炎, インフルエンザ）

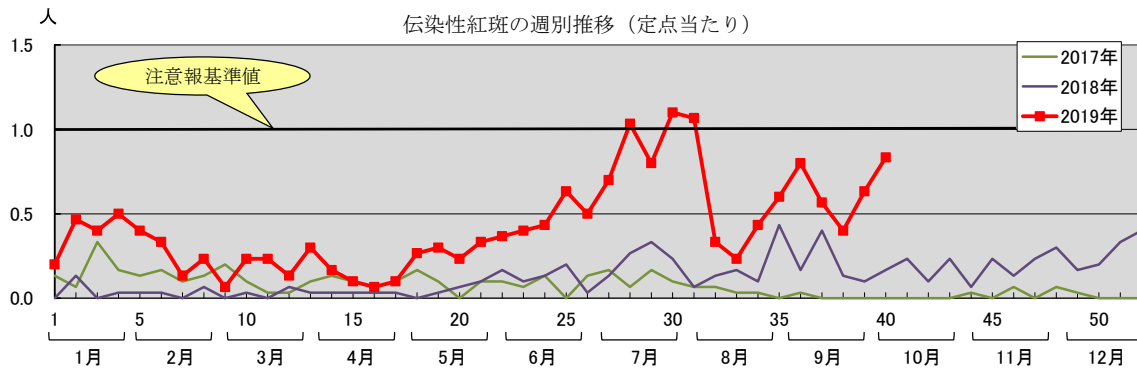
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou16/01.html>

○伝染性紅斑（リンゴ病）気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。



<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

第40週に幡多福祉保健所管内から重症熱性血小板減少症候群の発生届けが1例報告されています。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所「ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
40	口内炎(ヘルペス?)	37℃,発疹,口内炎,	6ヶ月	男	須崎	Cytomegalovirus
40	伝染性単核球症	39℃,咳嗽,下気道炎,肝機能,	1	女	中央東	Epstein-Barr virus
40	伝染性紅斑	39℃,	6	女	幡多	Human herpes virus 7
40	インフルエンザ様疾患	39℃,下気道炎,気管支炎,	2	女	幡多	Human metapneumovirus

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
39	手足口病	嘔吐,嘔気,咳嗽,水泡,発疹,	4	男	高知市	Coxsackievirus A16
39	手足口病	39℃,発疹,	2	男	須崎	Coxsackievirus A16
39	—	咳嗽,	3	男	中央東	Coxsackievirus A5
39	インフルエンザ様疾患	39℃,下気道炎,	11ヶ月	男	幡多	Coxsackievirus B5
39	急性上気道炎	—	0ヶ月	男	中央東	Echovirus 11
39	無菌性髄膜炎(疑)	39℃,	6	男	幡多	Echovirus 30
39	—	38℃,	4	男	高知市	Herpes simplex virus 1
39	不明発疹症	40℃,咳嗽,発疹,	9ヶ月	女	須崎	Herpes simplex virus 1

<国内の手足口病由来ウイルス検出状況>

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間(2019年第33週～第37週)では、Coxsackievirus A16の検出割合が最も多く41%(28件)、次いでCoxsackievirus A6が32%(22件)、Rhinovirusが13%(9件)、Human herpes virus 6が1%(1件)となっています。

<国内のインフルエンザウイルス検出状況>

国内のインフルエンザウイルス検出状況は、今シーズン(2019年第36週～第40週)では、AH1pdm09の検出割合が最も多く76%(42件)、次いでAH3が15%(8件)、B(ビクトリア系統)が9%(5件)となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結核	1	90	60歳代 女	高知市
		1		70歳代 男	
3類	腸チフス	1	1	20歳代 男	
4類	重症熱性血小板減少症候群	1	6	80歳代 男	幡多
5類	百日咳	1	138	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	高知市
		1		30歳代 男	安芸
		1		5～9歳 女	高知市
		1		5～9歳 男	
		1		10～14歳 男	
		1		40歳代 女	
		1		50歳代 女	
1	70歳代 女				

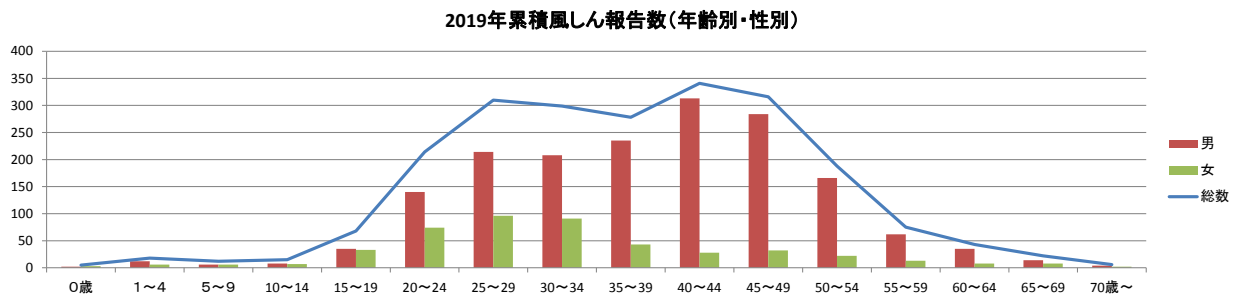
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	咽頭結膜熱管内保育所で流行中（1～4歳）
高知市	高知医療センター小児科	RSV感染症4例（3ヶ月男、5ヶ月女、9ヶ月女、2歳男） アデノウイルス咽頭炎2例（1歳、2歳） 病原性大腸菌 O-25 腸炎1例（3歳） 病原性大腸菌 O-157 腸炎（ベロ毒素陰性）1例（9歳） 病原性大腸菌 O-15 腸炎1例（28歳） シトロバクター腸炎1例（9歳） マイコプラズマ肺炎1例（13歳：Lamp法陽性） hMPV気管支炎2例（0歳、1歳）
	けら小児科・アレルギー科	
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（6歳男） アデノウイルス感染症1例（4歳男）
	福井小児科・内科・循環器科	RSV感染症5例（10ヶ月男、1歳男女、2歳男女） 伝染性紅斑2例（5歳女2人） 溶連菌感染症4例 手足口病4例
	細木病院小児科	ロタウイルス1例（7ヶ月女）
中央西	石黒小児科	帯状疱疹1例（13歳男） マイコプラズマ肺炎1例（16歳男） インフルエンザA型2例
	くぼたこどもクリニック	ヘルパンギーナ2例（2歳女、4歳男：仁淀川町） RSV感染症1例（1歳男：津野町） 帯状疱疹1例（1歳女）
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎2例（2歳女、9歳女）
須崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎2例（1歳、4歳） ヘルペス性歯肉口内炎1例（6歳女） 39w 腸炎（大腸菌 O-26）1例（1歳女）
幡多	さたけ小児科	hMPV1例（1歳男） 帯状疱疹1例（8歳男）
	幡多けんみん病院小児科	hMPV1例（9ヶ月男）

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019年第1週～39週の報告数は2,210人となっており（2018年の同時期全国で985人）、95%（2,092人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に（男性1,738人、女性472人）に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、佐賀県、北海道など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ
感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染
潜 伏 期 間 : 2～3 週間程度
感染性のある期間 : 発疹のでる 7 日前から発疹出現後 7 日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として 2019 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第 5 期)を実施しています。

2019 年度は、

・1972 年（昭和 47）年 4 月 2 日から 1979 年（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和 37）年 4 月 2 日から 1972（昭和 47）年 4 月 1 日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。

2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

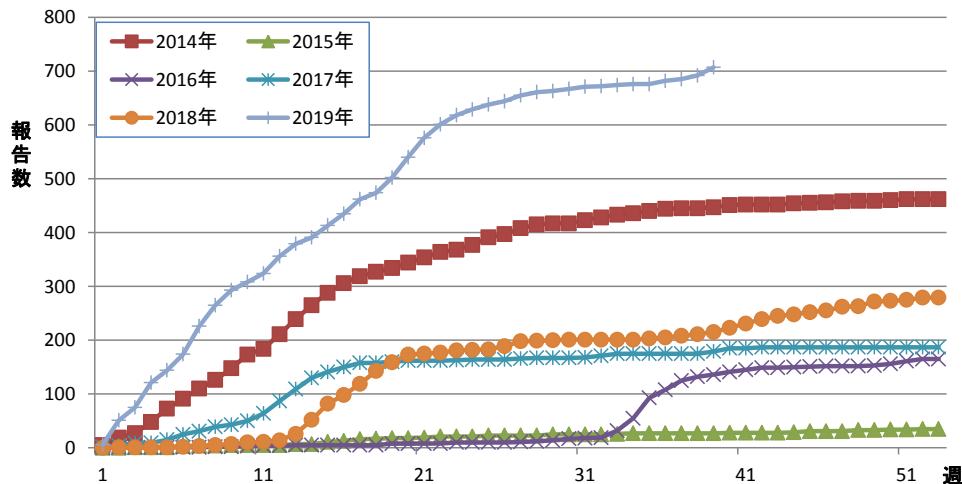
●衛研ニュース第 20 号（高知県衛生環境研究所）30～50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻疹に気を付けて！

麻疹については、平成 27 年 3 月 27 日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019 年第 1 週～39 週の全国の麻疹の報告数は 707 人と過去 5 年で比較して多い状態が継続しています（累積報告数：2014 年 462 人、2015 年 35 人、2016 年 165 人、2017 年 187 人、2018 年 279 人）。今後、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。

麻疹累積報告数推移(全国)



予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成 31 年 3 月 4 日付け 30 高健対発第 1886 号「麻疹発生報告数の増加に伴う注意喚起」より)

- ①発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻疹の罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻疹を意識した診療をお願いいたします。
- ②麻疹を疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生環境研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻疹患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）第 12 条第 1 項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻疹の感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

●医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月（国立感染症研究所疫学センター）

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

●麻疹について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

●麻疹（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年10月7日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	第40週 令和元年9月30日(月)～令和元年10月6日(日)							高知県衛生環境研究所				
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(39週)	高知県(39週末累計) H30/12/31～R1/10/6	全国(39週末累計) H30/12/31～R1/9/29	
小児科	インフルエンザ		1	13	5	2			21 (0.44)	42 (0.88)	4,543 (0.92)	13,886 (289.29)	1,448,598 (293.71)	
小児科	咽頭結核熱			9	12			4	2	27 (0.90)	37 (1.23)	1,147 (0.36)	645 (21.50)	52,972 (16.81)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	31	4		1	8	45 (1.50)	31 (1.03)	4,472 (1.42)	2,415 (80.50)	252,181 (80.03)
	感染性胃腸炎		6	15	20	4			8	53 (1.77)	51 (1.70)	8,643 (2.74)	4,561 (152.03)	620,905 (197.05)
	水痘			3	2			1		6 (0.20)	6 (0.20)	660 (0.21)	293 (9.77)	39,183 (12.44)
	手足口病		2	4	10	3		5	14	38 (1.27)	31 (1.03)	5,748 (1.82)	2,477 (82.57)	352,949 (112.01)
	伝染性紅斑			4	17	3		1		25 (0.83)	19 (0.63)	1,772 (0.56)	512 (17.07)	84,549 (26.83)
	突発性発疹			2	3			1		6 (0.20)	12 (0.40)	1,105 (0.35)	401 (13.37)	49,685 (15.77)
	ヘルパンギーナ		1	4	6	12			1	24 (0.80)	20 (0.67)	1,857 (0.59)	705 (23.50)	87,198 (27.67)
	流行性耳下腺炎								1	1 (0.03)	()	270 (0.09)	37 (1.23)	12,058 (3.83)
	RSウイルス感染症		3	8	45	1		8	18	83 (2.77)	83 (2.77)	7,441 (2.36)	1,105 (36.83)	103,743 (32.92)
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	6 (0.01)	1 (0.33)	278 (0.40)	
	流行性角結膜炎								()	1 (0.33)	506 (0.73)	51 (17.00)	17,455 (25.15)	
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	8 (0.02)	2 (0.25)	356 (0.74)	
	無菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	22 (0.05)	4 (0.50)	565 (1.18)	
	マイコプラズマ肺炎			1	2				3 (0.38)	4 (0.50)	136 (0.28)	107 (13.38)	3,363 (7.02)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	()	1 ()	4 (0.50)	72 (0.15)	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)				1				1 (0.13)	()	5 (0.01)	90 (11.25)	4,627 (9.66)	
計 (小児科定点当たり人数)		13 (6.25)	64 (8.32)	154 (13.59)	29 (9.39)	21 (10.50)	52 (10.40)	333 (10.71)			38,342	27,296 (727.66)	3,130,737	
前週 (小児科定点当たり人数)		14 (6.00)	50 (6.48)	163 (13.81)	33 (10.33)	27 (13.50)	51 (10.05)		338 (10.54)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第40週							高知県衛生環境研究所				
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(39週)	高知県(39週末累計) H30/12/31～R1/10/6	全国(39週末累計) H30/12/31～R1/9/29	
小児科	インフルエンザ		0.25	1.18	0.31	0.40				0.44	0.88	0.92	289.29	293.71
小児科	咽頭結核熱			1.29	1.09			2.00	0.40	0.90	1.23	0.36	21.50	16.81
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.14	2.82	1.33	0.50	1.60	1.50	1.03	1.42	80.50	80.03	
	感染性胃腸炎		3.00	2.14	1.82	1.33		1.60	1.77	1.70	2.74	152.03	197.05	
	水痘			0.43	0.18			0.50		0.20	0.20	0.21	9.77	12.44
	手足口病		1.00	0.57	0.91	1.00	2.50	2.80	1.27	1.03	1.82	82.57	112.01	
	伝染性紅斑			0.57	1.55	1.00	0.50		0.83	0.63	0.56	17.07	26.83	
	突発性発疹			0.29	0.27			0.50	0.20	0.40	0.35	13.37	15.77	
	ヘルパンギーナ		0.50	0.57	0.55	4.00		0.20	0.80	0.67	0.59	23.50	27.67	
	流行性耳下腺炎								0.20	0.03	0.09	1.23	3.83	
	RSウイルス感染症		1.50	1.14	4.09	0.33	4.00	3.60	2.77	2.77	2.36	36.83	32.92	
眼科	急性出血性結膜炎										0.01	0.33	0.40	
	流行性角結膜炎									0.33	0.73	17.00	25.15	
基幹	細菌性髄膜炎										0.02	0.25	0.74	
	無菌性髄膜炎									0.13	0.05	0.50	1.18	
	マイコプラズマ肺炎			1.00	0.40				0.38	0.50	0.28	13.38	7.02	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)											0.50	0.15	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)				0.20				0.13		0.01	11.25	9.66	
計 (小児科定点当たり人数)		6.25	8.32	13.59	9.39	10.50	10.40	10.71				727.66		
前週 (小児科定点当たり人数)		6.00	6.48	13.81	10.33	13.50	10.05		10.54					

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第40週)

